



地域再生 協議会だより

百合が丘 2 - 29 - 6 (老人憩いの家) 59 - 9356 (火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

公社「農」で魅力アップ 家賃割引と支援拠点の整備へ

神奈川県住宅供給公社は、入居の促進と地域の魅力アップを狙いに、アグリサポーターの募集を始める。団地に住みながら農業に従事する人には賃料を半額にするほか、賃貸を終える 4 号棟に就農支援の拠点を整備する。公社居住者中心のバックアップからスタートし、支援対象をさらに広げる方向で検討する。



県公社は二宮団地の魅力を高めるため、コンパクト化やリノベーション推進と並行して共同菜園 (左写真) や水田耕作、音楽イベント開催などを手がけてきた。今回はこれを一歩進め、入居促進、地域の魅力アップの両面で「農業」を前面に打ち出すことにした。

計画によると、二宮町周辺での就農希望者、就農者に対しては団地住宅家賃の半額、支援施設の無料貸し出し、農地確保の支援などを行う。このうち、団地中央にほど近い 4 号棟の拠点には農機具や野菜倉庫を設け、ニーズがあれば軽トラ、耕運機などを貸し出す。拠点は模様替え工事が終わる 6 月ごろから使用できる。一方のアグリサポーターには共同農園でのイベントへの協力、農園管理への参画などを求めている。 (関連 2 頁)

「ヘイ ジュード」(ビートルズ)を大合唱で やまゆり合唱団、新団員募集

「ヘイ ジュード」「ふるさと」「誰も寝てはならぬ」——。やまゆり合唱団の 31 年度の曲目が決まった。「ふるさと」「誰も寝てはならぬ」についてはすでに固まっていたが、最もアピール性の高い 3 曲目については調整が続いていた。



桑田さん



一石さん



高寺さん



岩崎さん

やまゆりは今年、結成 3 年目。正統派の合唱曲に加えて初年度は「アメイジンググレイス」、2 年目は「ハレルヤ」を挑戦曲と位置づけ、練習に励んできた。ポール・マッカートニーの作品をどうこなすか、関心呼びそうだ。指導は写真の 4 先生。

「住まいの利活用講座」閉幕

パネルD、ワークショップで盛り上げ

昨秋から展開してきた「住まいの利活用講座」は今年度の事業を終えた。「空き家にし



ない、人と住まいの生涯学習」をテーマに合計9回の講座を計画。総集編として「空き家の利活用ーパネルディスカッション」(左写真)、「断熱・省エネワークショップ」を相次いで開いた。

冒頭に、加藤仁美東海大教授が百合が丘地区住民の居住実態報告を行い、蔀健夫前県公社専務理事がこれまでの講座の要点を説明した。

パネルでは、「親族の近居居住が多いことに注目すべき」(加藤教授)、「企業のサテライトオフィス誘致、子育て支援のサイクルらなる拡充が必要」(原大祐氏)、「10年ほど前に横浜から移住し、その後子供たちも相次ぎ越してきつつある」(高橋哲也氏)、「ライフサイクルに合わせた賃貸と戸建ての循環居住の推進」(蔀氏)などの発言があった。出席者からは、この地区の地形上の制約、交通弱者の移動対策などについての質問があった。出席者は約40名。

また、2月11日(月)、公社住宅25号棟で行われたワークショップには約25名が参加。窓やドア、壁の断熱対策をDIY方式で行い、施工前後の数値変化を確認した。ここでの体験を機に、簡易工事に取り掛かりたいとする参加者も出るなど、盛り上がりがあった。

団地再編、3年早まるー一県公社中間報告

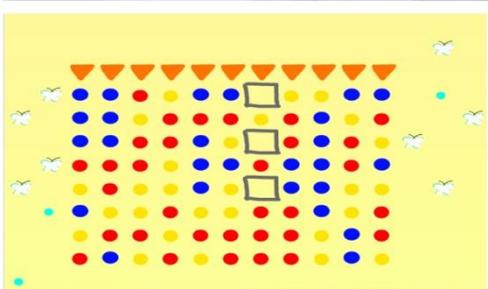
再生協議会、百合が丘自治会は2月10日(日)、公社団地再編の進ちょく説明会を開いた。席上、県公社は集約棟からの移転が順調に進み、当初より3年早いH33年度にも廃止棟からの移転が終わるとの見通しを明らかにした。最近の入居者が30件/年を上回っており、集約後の入居率を75%程度にまで引き上げるとしている。

当日は約40名が出席。説明では、事業開始のH28年春からの3年で、廃止予定10棟の居住130超世帯について、移転に同意するメドが得られた。二宮団地内の他棟移転が最も多く、第1段階の計画は大きなヤマを越えつつある。

計画が早まったことについて公社は、移転対象世帯、新規入居者とも、この間実施してきたセルフリノベーション展開、音楽祭、共同菜園などのイベント開催、地域の魅力アップ作戦がプラスになったと見ている。計画が前倒しになったことで、賃貸終了棟の解体、跡地の計画への取組みが早まる見通し。しかし、跡地利用に関しては白紙状態で、空き店舗が目立つ商店街の再生とともに大きな課題が残る。

一色小・プログラミング講座、終了

「続けてやりたい」が子供たちの声



学校連携部会（山本正博部会長）が湘南二宮ITクラブと連携して一色小生を対象に実施してきたプログラミング講座「ニーノビスケットラボ」（全6回）が2月半ばに終了した。3—5年生14名が授業終了後、ランドセルを持ったまま地域こうりゅうルームに集まり、「ビスケット」という文字を使わない方式を学んだ。

最終日は、自分で考えたタイトルやルールなどをまとめた「設計図」に基づいてプログラミングを行い、全員の前で作品（左）の内容、工夫した点などを発表した。どの作品も相当なレベルの出来栄えと言われ、保護者や一色小の先生たちは子供たちの成長ぶりに驚いていた。同講座は、昨年6月の全学年向け体験講座を引き継いだもので、昨年10月からスタートしていた。

講座修了後のアンケートでは、ほとんどの子供が（プログラミングを）「やりたい」「すごくやりたい」と答えており、続けて学ぶことに対して極めて積極的だ。指導に当たったITクラブの川島美穂子さんは「子供達が自分で考え、想像し、伝える力を養うという講座の狙いはそれなりに達成できたと思う」と語っている。

長畑公園(百合3)を改修

公園部会（渡辺貢成部会長）は2月半ば、トイレ更新を中心にした長畑公園の改修工事を計画通り実施した。洋式トイレへの切り替えは専門業者に発注したものの、それ以外の作業は3丁目公園愛護会（リ・プレイ長畑公園）が中心になって進めた。



親子が揃って参加



新装のトイレ

工事は2日間にわたって行われ、両日とも地域住民20人以上が参加した。今回の改修は「子どもも大人も楽しめる公園」がテーマで、企画、設計から工事まで子育て世代が数多く参加している。総費用40万円弱の大半は子供が使いやすい洋式トイレへの入替えに充て、トイレ床のタイルカットと貼り込み、壁の板張り、換気扇・シーリングライトの取付けなど周辺作業は参加住民が担当した。愛護会関係者は、「ヒノキの香のある素敵なトイレが出来た。大人も子供も入り乱れての楽しい作業でした」。

新年度も継続、有料化へ

地域こうりゅう塾「もっと知ろう一色・二宮」を開催してきた学校連携部会（山本正博部会長）は31年度も同講座を継続する。昨秋以降、ほぼ月2回ペースで開いているが、毎回40—60名の参加があり、一色小学校区以外からの出席も増えている。新年度からはマイク、スピーカー、スクリーンなど講座の受講環境を整えたうえで、テーマ次第では有料化（資料作成費）することにした。

同講座は町生涯学習課の協力を得て、生涯学習連続講座のサブタイトルを付けて開催してきた。昨年9月から今年度末までの開催数は15回に達し、時折、会場の教室が満杯になることもある。講師は町内の有識者を中心にお願いし、毎回テーマを変えて回を重ねてきた。最近のアンケートでは、受講回数が「はじめて」の人に加え、「3回以上」とする回答が多くなっており、講座の定着ぶりがうかがえる。

学校連携部会では、同講座が地域の人が学び、交流する場として存在感が増すと見ており、継続の決定を機に音響や映像環境を充実させる。また、各講師作成の、充実した資料を無料配布してきたが、新年度からは内容を見ながら300円をめぐにした受講料を求めることを決めた。受講料は資料作成費など講座の自立運営に充てる。

5月末までの講座スケジュール

いずれも、一色小南棟地域こうりゅうルームで。10:00~12:00

- 3/2 (土) 松本 岩太郎氏 (GNP) 「二宮の石仏」
- 3/16 (土) 橘川 卓司氏 (町文化財保護委員) 「一色のいま・むかし」
- 3/17 (日) 「二宮創生一地域づくりシンポジウム」
名和田法政大教授、村田町長ほか

*町民センターホール 14:00~16:00



松本氏



橘川氏



名和田教授



村田町長

- 3/30 (土) 勝山 輝男氏 (生命の星・地球博物館学芸員)
「神奈川県植物誌と二宮の植物」
- 4/20 (土) 依田久司氏 (かながわ福祉移動サービスネットワーク副理事長)
「高齢者の外出支援サービスの可能性」
- 5/18 (土) 原 道子氏 (町教育委員) 「小中一貫教育って何？」
- 5/25 (土) 岡野 俊彦氏 (日産自動車総研研究員) 「電気自動車のしくみ」

問合せ 協議会事務局 ☎59-9356 (火、金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp